2022（令和４）年度学校評価表

学校法人金城学園　遊学館高等学校

建学の精神	何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと（遊学の精神の涵養）。 周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること（良妻賢母の育成）。
教育理念	教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。
教育目標	文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間の育成をめざす。

【アンケート調査】

	名　　称	実施予定	対象	主担当部署
1	学校行事アンケート（体育祭）	6 月	全校生徒	保健体育科
2	保護者アンケート	7 月	2，3 年生保護者	教務部（IR）
		3 月	1 年生保護者	
3	学校行事アンケート（学園祭）	9 月	全校生徒	生徒会
4	学校生活アンケート	10 月	全校生徒	① 生徒指導部（品格、挨拶、愛校心、正義感（マナー）
				② 遊学講座運営委員会（遊学講座）
				③ 教務部（総合的な探究の時間）
5	委員会アンケート	10 月，2 月	各委員会	生徒会
6	授業アンケート	12 月	全校生徒	教務部（IR）
7	卒業生アンケート	2 月	3 年生	教務部（IR）
8	修学旅行アンケート	3 月	2 年生	1,2 年学年会

重点目標　　1．心身ともに健康な生徒の育成

	重点目標に対する具体的取組	担当部署	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	自らの品格を高めるとともに、他者の人格を重んずる心を養う 〇SNS によるトラブル及びいじめの未然防止 〇スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	アンケート実施により、SNS トラブルを未然に防げた。集計が不十分だった学年もあるため、学年会やクラス担任にも協力してもらい集計を徹底する。カウンセリングは来年度も継続して実施する。	ルーブリック 12 点満点評価 （1）年度当初のアンケートの実施と面談 （2）SNS トラブル発生相談件数及び解決数 （3）カウンセリング受診者数と解決数（振り返り） S　12 点　　A　10 点以上 B　7 点以上　C　4 点以上 D　4 点未満	A	ルーブリック評価（A：１０点） （１）アンケート＋面談という形で年間通して実施した。 （２）SNS トラブルで大きな問題となるものはなかった。 （３）生徒、保護者を対象にカウンセリングを行った。※受診は状況に応じて対応。 総評：アンケート実施により、SNS トラブルは未然に防げ、集計もできた。継続してカウンセラーとの連携も行う。
②	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	学校アンケートの結果は、ほとんどの項目が 70%を越えたあたりになっている。内容としては、校則順守、基本的な生活習慣の確立、挨拶、人間関係。丁寧に生徒の成長がみられる指導をこれからも継続していく。	学校生活アンケートの結果 S　肯定評価 90%以上 A　　80%以上 B　　70%以上 C　　60%以上 D　　50%未満	A	学校アンケート関連項目において、肯定評価が 90%に近い結果となった。 校則違反の指導やや交通マナーに対する苦情が多いが、ルールやマナーを守ろうとする生徒の気持ちを尊重しながら学校全体で指導する必要がある。
③	正しい頭髪・服装で登校 〇校門指導（毎日実施） 〇服装指導期間（定期的） 〇服装指導（日常的） 〇頭髪指導（月一回）	生徒指導部	前年度に休校などが多く、今年度との比較は難しいが、指導書が多い＝指導不足ではなく、生徒指導部長、クラス担任、該当生徒と保護者での面談も多く行われ、生徒指導部、クラス担任、保護者の連携が取れた場面が多くみられたので、継続して取り組んでいきたい。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 S　90%以下 A　95%以下 B　105%以下 C　110%以下 D　110%超	D	指導書の発行は、多い傾向にあったが指導書が多い＝指導不足ではなく、生徒指導部長、クラス担任、該当生徒と保護者での面談も多く行われ、学年主任や教科担任も含めて連携することができた。今後はさらに協力体制を強化することで生徒と共通理解を深めて指導を進めていきたい。
④	不注意による遅刻をなくす 〇遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	遅刻は特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒に対して早出登校だけでなく、普段からの生活習慣の改善や、家庭の協力が今後も必要である。	遅刻者集計表で 10%未満の月数 S　7 ヶ月以上 A　6 ヶ月以上 B　5 ヶ月以上 C　4 ヶ月以上 D　3 ヶ月未満	D	遅刻者集計表で 10%未満の月数は 2 か月であった。遅刻は、特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒には、クラス担任の個別面談と、家庭にも理解と協力を求めるなど連携して改善につなげる。
⑤	正義感を持って公共のルール・マナーを守る 〇自転車マナーの向上 〇バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	（1）外部から苦情、お礼の連絡を多く頂いた。（2）金沢駅バス指導の成果により、劇的に苦情件数は減少した。しかし、継続的な指導が必要。（3）交通安全講話は、年度初めに自動車学校の方に来ていただき実施した。 （4）問題行動に至ったものもあった。SNS トラブルなど、クラス担任を中心に生徒に対して積極的に関わることで問題を未然に防ぐ指導が必要。	ルーブリック 12 点満点評価 （1）外部からの苦情及びお礼の言葉の件数 （2）金沢駅での乗車指導 （3）交通安全講話の実施 （4）問題行動の件数 S　12 点　　A　10 点以上 B　7 点以上　C　4 点以上 D　4 点未満	B	ルーブリック評価（B：７点） （１）外部からの苦情もあったがお礼の言葉も頂いた。 （２）金沢駅バス指導の成果により、苦情件数は減少した。今後は、関係交通機関や他校との連携も必要。 （３）交通安全講話は、年度初めの校内研修において実施した。 （４）クラス担任を中心に未然に防ぐことが必要。今年度は、やや怠学が多い傾向にあった。

重点目標　　2．確かな基礎学力を身につける						
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	教員の指導力及び資質の向上 〇校内研修の充実 〇県外視察や研修を奨励 〇研究授業・互見授業週間の活性化 〇ICT 活用 〇オンライン技術	教務部	評価については、コロナ禍において教員が校内外の研修にほとんど参加できなかったことが主な原因である。その中でも校内研修は５回行うことができ、うち外部講師による校内研修は、オンラインで２回行うことができた。また学期ごとに互見授業週間を設定し、参加割合は15%程度と少ないことが課題である。ICT 活用については、GoogleWorkspace への登録を全教員に行い活用の準備を整えることができた。活用法については校内研修を利用し共有したい。Classi は年間通して連絡手段として活用できた。授業アンケートでは、57.1%の教員が80%以上の肯定的評価を得ている。	ルーブリック評価 評価項目（各４点満点） １．指導力及び資質の向上 ２．校内研修の充実 ３．県外視察や研修を奨励 ４．研究授業・互見授業週間の活性化 ５．ＩＣＴ活用 ６．オンライン技術 ７．授業アンケート 今年度６および７は評価せず 20 点満点中 S　18 点以上 A　15 点以上 B　12 点以上 C　9 点以上 D　9 点未満	C	１．指導力及び資質の向上 ２．校内研修の充実 ３．県外視察や研修を奨励 今年度もコロナ禍の影響により校外派遣は見送ったが、外部講師を招いて様々な観点による校内研修を実施した。 ４．研究授業・互見授業週間の活性化 研究授業については実施形態の見直しを予定しており、今年度は未実施とした。互見授業については年間２回の実施を行ったが、参加者が少なく課題が残った。 ５．ICT 活用 ６．オンライン技術 ICT 活用については、年度末に教員用として Chromebook を配布し、来年度より始まる生徒 Chromebook 活用の事前準備にあたったが、設定等の見直しも必要であった。オンライン技術については教員個人の資質にかかわる部分もあるが、多くの教員が ICT 活用を開始していることを踏まえ、研修や会議のオンライン化を進める中で技術を習得できるようにする。オンライン技術の評価については、教員と生徒の Chromebook 利用状況をみながら方向性を決定することとし、今年度の評価は見送ることとした。 ７．授業アンケート 授業アンケートは現在集計中である。
②	学習の基礎基本の徹底 〇好ましい学習習慣を身につけるための指導	教務部	授業態度指導カード発行枚数の生徒に対する割合は 4.8%と、発行数自体は少ない。授業態度指導カードのあり方については、令和４年度１年生からの観点別評価実施にともない見直しを行う。	授業態度指導カードの発行数と全生徒数との割合 S　5%未満 A　5%～10% B　10%～25% C　25%～50% D　50%超	A	今年度は昨年度に比べて発行枚数が 30 枚ほど増えた。全校生徒に対する割合も6%以上に伸びているため、積極的にカードを発行する教員が増えたと見ることができるが、見方を変えれば、指導される生徒が増えたとも言えるため、発行枚数は現状を把握するために必要だと考えるが、発行する必要がなくなるよう授業内の雰囲気づくりが大切となる。また、発行後の対応が重要であり、発行を受けた生徒への適切な対応と発行の意味付けができるよう周知していく必要がある。
③	英語検定受験者の増加と資格取得	教務部 検定担当者	合格者：2 級 10 名、準 2 級 27 名、3 級 9 名、校内受検率：13.3%、合格率：29.5% 3 年間の受検状況を見ると、受検率も 15%近くなり、少しずつではあるが、検定受検への意識が出てきている。また今年度は 2 級合格者も 10 名出ている。特に部活動単位での受検をする場合が多く、文武両道を考えている部活動も多い。大学入試共通テストで高得点を取っている生徒は全て英検 2 級以上を取得していた。そのため、次年度以降は特進のクラス担任と連携して、年間 1 度でも特進コース全体で受検できるようにし、3 年次に 2 級以上の取得を特進コースでは目指す。	ルーブリック 12 点満点評価 (1)受検者数 (2)準 2 級以上の合格者数 (3)取得率 S　12 点 A　10 点以上 B　7 点以上 C　4 点以上 D　4 点未満	B	合格者：2 級 4 名　準 2 級 29 名 3 級 5 名 校内受検率：12.1%　合格率：27.7% 準 2 級の受検者数が年々増加しており、全体の受検者で、昨年は 60%、今年は 62%を占めた。評価項目において合格率の欄が最も評価が低く、総合評価で A 評価にならない原因となっている。そのため、この 60%を超える準 2 級の受検者をどれだけ合格させていくかが今後の課題となっていく。次年度は ALT と連携し、ライティングの指導を加えることで合格率をあげるように行動を変えていく。 また第 2 回の受検者数が他の回に比べ半分以下となっているため、この回でも同数の受検者を確保できるように、英語科教員と協力して案内をしていく。
④	模擬試験における目標の明確化 〇模擬試験結果のフィードバック	教務部	第 2 回スタディーサポートの D 層の割合は、44.0%である。今後は教科会と連携し、生徒のできない部分を明らかにし基礎学力の向上をはかりたい。今年度はコロナ禍にあり受験者が少なかったが、外部模試の活用をすすめたい。	D 層の生徒数と学年生徒数の割合 １．１年生 ２．２年生 S　10%以下 A　30%以下 B　45%以下 C　60%以下 D　60%超	D	１．１年生 第 2 回スタディーサポートの D 層の割合は、国数英 1 年生 65%、特に 1 年生の D3 ゾーンが近年と比べ増加している。スタディーサポートをはじめとする模試への意識が低いと思われる。今後は進路指導部へ業務が移行されるので、意識改善や成績向上を期待したい。 基礎学力の向上は教科との連携が大切との考えから教務部で模擬試験を担当してい

						たが、現時点では連携不足は否めない。来年度より進路指導部担当となるが教務部も連携し取り組みたい。
			第２回スタディーサポートのＤ層の割合は、58.1%である。		C	２．２年生 第２回スタディーサポートのＤ層の割合は、２年生 53%である。

重点目標　　2．確かな基礎学力を身につける						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
⑤	「総合的な探究の時間」を充実・発展させる	教務部	小論文のテキストを利用し、テーマや設問で意見を問う小論文の書き方を学び、序論・本論・結論の構成にしたがって段落分けができるようになった。また、SDGs で興味を持った項目について調べ、企業や学校、各団体等が目標を達成するために実践していることを学んだ。多くの問題が発生していることを知り、今、自分で何ができるのかを考えるきっかけとなった。	学校生活アンケート（総合探究の時間）の結果 S　肯定評価 90%以上 A　　80%以上 B　　70%以上 C　　60%以上 D　　60%未満	A	テキスト「ドラえもんはじめての論語」を使い、孔子の言葉から多くの名分・名句に触れ、書き写したり意味を書き込んだりした。日常生活の中で大切な事や考える力、生きる力となり（思いやりの気持ち）人生を豊かにする一助となった。また小論文テキストを利用しテーマに沿って、将来の進路に直結する小論文の大切さを学んだ。修学旅行の事後研修では全員がクラス内でテーマ別自主研修の発表が出来た。マイキャリアノートを定期的に活用し、テスト結果の見直しや大会結果の記入、行事の振り返り等を書き込み有意義なものとした。
			「ENAGEED」を使用し「新しい時代に対応する力」について考える教材を用いて、自身の視野や可能性を広げ、自分が選んだ道を正解にする力を身につけるための学習を行い、他人の立場に立って考える力や問題解決することによって新たな力が身についた。 志望理由書の書き方を学び、来年度の進路について意識を高め自分自身を見つめ直すことができた。 SDGs について学習し、16 の目標を確認しそれぞれの問題点や課題に気づき知識を深めながら問題解決に必要なことを考える力を身につけた。		S	「ENAGEED」を使用し「自分はこれからの未来で何をやりたいのか」について考える教材を用いて、「自身の可能性」を広げるための活動を行い，未来に向けてイメージを広げ、これから求められる力について考える（理解する）ことができた。 小論文のテキストを利用し、テーマや設問で意見を問う小論文の書き方、言葉の使い方、文章の書き方を学び、自分の意見をまとめて書くことができるようになった。
			小論文ガイダンスを受講し、課題に対して自分の意見をわかりやすく表現する練習をした。活動を通して、相手に伝わりやすい文章で表現する力をつけた。 職業講話では、日本航空の客室乗務員の方から「おもてなしの心」や「制服の着こなし」について学んだ。講話を通して礼儀正しさや、制服を正しく着こなすことが相手に安心感を与えるということに気づくことができた。 マイキャリアノートを利用し、自分自身を見つめ直すきっかけとした。		A	小論文だけでなく志望理由や自己 PR 文などを書く練習も重ね、スムーズな入試書類の作成、小論文テスト、面接へとつなげることができた。 職業講話では、実際の客室乗務員を目の前にし「制服の着こなし」や「おもてなしの心」、「言葉遣い」に対する意識が向上した。SDGs について学習し、16 の目標を確認しそれぞれの問題点や課題に気づき知識を深めながら問題解決に必要なことを考える力を身につけた。
⑥	図書室利用者数の増加	教務部	昨年度と同様コロナ禍の影響のため活発な活動ができなかった。図書室の使用についての「図書だより」を発行できた。	利用者数 S　年 350 人以上 A　　300 人以上 B　　200 人以上 C　　100 人以上 D　　100 人未満	D	一定期間であったが、図書室を開館できた。ただし利用者はほとんどなかった。また本校他施設の改築に伴う図書室利用制限も影響した。来年度に向けて、図書委員が図書室利用や読書の推進に関わる活動に着手したことは有意義であった。

重点目標　　3．広い視野を持ち主体的に学校生活を営む						
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会	委員会での主体的な活動は、本校では難しい一面もあるが、来年度はボランティア活動を取り入れるなどして、委員会の生徒と共に多くの生徒が参加できる活動を準備したいと考えている。	委員会アンケート S　肯定評価 90%以上 A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	D	委員会を対象としたアンケートは実施していないためD評価とした。今年度の活動も各委員会で例年同様の活動が行われたが、生徒会を中心とした主体的な活動とは言い難い。また、ボランティア活動についても、委員会との協力体制は構築できなかった。
②	本校らしい体育祭・学園祭 〇生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科	コロナ禍ではあったが、はじめて室内での体育祭を実施できた。熱中症等の体調不良者や大きなけがもなく、全員が楽しむことができた。今後は室内でもさらに盛りあがる競技を実施していきたい。	体育祭アンケートの結果 S　肯定評価　90%以上 A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　50%未満	S	今年度もコロナ禍ではあったが、感染予防対策をとり、体育祭を実施することができた。いしかわ総合スポーツセンターでの開催となってからは、熱中症で体調を崩す生徒が一人もでていない。これからも本校の特色のひとつとして、さらに誰もが楽しめる体育祭にしていきたい。
		生徒会	今年度は、コロナ感染の影響があっても２日開催での実施を前提に計画したいと考えている。1日開催では、生徒会の予算運営にかなりの負担がかかっている。また、生徒の意見でも２日間開催を希望する意見が多くあった。	学園祭アンケート結果 S　肯定評価 90%以上 A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	S	今年度は模擬店を中心とした校内開催日とステージ発表日の２日間開催で実施した。２日とも95%以上の生徒が肯定的に回答していた。特に、２日目のステージ発表は部活動の発表だけでなく生徒の意外な一面を知る機会となり、好評を得ることができた。
③	充実した修学旅行を実施する 〇事前・事後（プレゼン含む）学習の内容を深める	１年学年会	コロナウイルス感染拡大の影響で来年度に延期となった。	修学旅行アンケート結果 S　肯定評価 95%以上 A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	S	北海道の修学旅行では集団行動の大切さとグループ研修では楽しみながら計画を立て小樽・札幌の食・文化・伝統に触れた。SDGｓに関連させ多くの学びを得た。
		２年学年会	コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。代替旅行（1泊２日）を３年次４月に実施予定。		S	コロナウイルス感染拡大の影響で３年ぶりの修学旅行の実施となった。4泊5日と長い日程であったが、肯定評価は95.5%であったことから生徒たちは非常に楽しむことができた。
④	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座運営委員会	学校生活アンケートの結果で肯定評価は１年生92%、２年生78%、３年生83%と学年ごとによって違いがあった。１年生にとってはこのような講座受講型は初めてだったことから積極的に取り組むことができたとも考えられる。 コロナ感染症関係で講座が休講になり生徒の欠席者数が例年より増加した１年であった。	学校生活アンケートの結果 S　肯定評価 95%以上 A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	S	本年度もコロナ禍であり、様々な制限はあったが、講師の先生方のご協力により、年間１８回を実施することができた。１年生は土曜日に講座があることに慣れるまでは大変な面はあるが、全体的に見れば資格取得や賞状を受け取っている生徒もおり、真面目に受講している生徒がほとんどである。生徒の感想文を読むと、多くの生徒が新しいことに挑戦したことで何らかの刺激を受けており、満足度は高いように感じる。
⑤	部活動加入率の向上 〇文化部の活性化 〇退部届を整備し、退部者を把握する	部活動担当	加入率が男子で68%、女子で50%なので女子生徒に対する加入率増加の方法を考えていきたい。	部活動加入率 S　75%以上 A　65%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	C	加入率が男子66%、女子で52%、全体で59%と前年度と大きな差はない。文化部に関しては前年度より加入数が40名増えた。退部届に関しては、担任と部(同好会)の顧問が協力して対応することが必要だと考える。
⑥	部活動において、県総体等（3年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす 硬式野球（夏の県予選）、サッカー（選手権県予選）、駅伝競走（県予選）、バトントワリング（全国大会地区予選）、吹奏楽（全国大会県予選）	部活動担当	コロナ禍でコロナ対策など大変な面もあったが各部頑張ってくれた結果である。来年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。	学校対抗戦において、 優勝（県代表）10点、 準優勝6点 ベスト4入賞（金賞）4点 ベスト8入賞2点　で換算 S　80点以上 A　70点以上 B　60点以上 C　55点以上 D　55点未満	A	前年度と同様にコロナウイルスの影響が続く中、まだまだ不安・心配な面もあったと思われるが、各部が頑張った結果である。今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。
⑦	学校のグローバル化を推進する	国際交流推進委員会	Zoomを利用して生徒同士の交流を2回、ニューイヤーカードの交換を行った。 Zoomでの交流は、大雪の様子やｅスポーツの活動の様子などを映し出すと、とても興味関心を持ってもらえた。現状はまだまだ渡航することは難しいためZoomでの交流が主となるが、生徒への参加を強く呼びかけ、本校からの参加生徒を増やすことが望まれる。	シジス校との交流 S　スカイプで生徒同士の交流（年3回～）質疑応答 A　生徒同士のメールのやり取り（年6回～）スカイプ交流で友達になり交流を始める B　異文化の研究（フランスの歴史・文化・言語など） C　クリスマスカードや年賀状を送る D　教員間メール交換(～3回)	A	Zoomを利用して生徒同士の交流を2回、ニューイヤーカードや伝統菓子の交換を行った。Zoomでの交流では、好きなスポーツについて話したり、日本食で好きなものを聞いたりし、お互いのことを分かり合えるように会話をした。来年度は、フランスのお菓子作りに挑戦するなど活動の幅を広げたいと考えている。また、生徒のフランス訪問を10月に予定している。

重点目標　　4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上						
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	国公立・難関私立大学合格実績 〇特進補習や勉強合宿等の充実 〇一般進学文系向けの業後補習 〇進路指導室での進学意識向上化 〇生徒の進路や特性にあった進路先と入試方法を、コロナ禍などの状況に応じた的確な進路指導を行う。 〇志望校（国公立・難関私大）検討会議の開催	進路指導部	国公立大学現役合格者 10 名を達成。一般入試合格には金沢大学 2 名を含んでいる。昨年度の反省を生かし、総合型選抜も積極的に受験させたことが 1 つの要因である。また、夏期休暇中には選抜者を京都の河合塾での夏期講習に参加させたことで、受験生としての意識も高まった。この成果が本年度だけに終わらないよう、今後も実績を積み上げていかねばならないことが一番の課題である。	国公立・難関私立大学合格者数 S　20 名以上 A　15 名以上 B　10 名以上 C　5 名以上 D　5 名未満	B	国公立大学については公立大学に 4 名が合格した。私立大学については一般入試で法政大学や立命館大学に合格。総合型選抜や推薦型選抜で中央大学 2 名、立命館大学 2 名、関西学院大学 2 名、指定校推薦で同志社大に合格。本年度は国公立大学の総合選抜型ではいい結果が出せなかったが、私立大学においては総合型選抜や一般入試で合格者が出た。来年度の新 3 年は 1・2 年次にキャリアアップも実施しているので、国公立大学の入試においても巻き返しをはかりたい。
②	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	高大連携教育推進委員会 ↓ 令和 4 年度からは進路指導部	進学者数は 24 名で、全体の 5.4% ＜合格者の内訳＞ ・社会福祉学部：11 名 ※子ども福祉学科 6 名 ・医療健康学部：7 名 ・看護学部：7 名 ※社会福祉学科 1 名を除く 24 名が進学 社会福祉学科を総合型選抜で受験した 3 名全員が不合格となったので、その原因や今後の指導について考えたい。	全校生徒に対する進学者の割合 ＜金城大学＞ S　6%以上 A　5%以上 B　4%以上 C　3%以上 D　3%未満	S	進学者数は 36 名で、全体の 9.6% ※合格者全員が進学 ＜合格者の内訳＞ ・人間社会科学部　　20 名 ※子ども教育保育学科 16 名 ・医療健康学部　7 名 ＊理学療法学科　6 名 ・看護学部　9 名 子ども教育保育学科受験者の増加が、大学進学者増加の要因となった。来年度は総合政策学部が新設予定のため、大学と高校で連携を取りながら、受験者増加を目指したい。
			進学者数は 52 名で、全体の 12.3% ＜合格者の内訳＞ ・ビジネス実務：33 名 ・幼児教育：12 名 ・美　　術：7 名 ※合格者全員が進学 3 年学年会として金城以外の短大や専門学校を志望する生徒に個人面談などを通し進路指導を行った。また、金城コース在籍者以外の生徒に対し、オープンキャンパスへの積極的な参加を促した。	＜金城大学短期大学部＞ S　16%以上 A　12%以上 B　10%以上 C　5%以上 D　5%未満	C	進学者は 30 名で、全体の 8.0% ※合格者全員が進学 ＜合格者の内訳＞ ・ビジネス実務　20 名 ・幼児教育　　7 名 ・美　術　　3 名 受験者減少の主な要因は以下の 2 点だと考える。 1. 幼児教育学科から大学の子ども教育保育学科受験にシフトしていること。 2. ビジネス実務学科の受験者が減少している。 2.の対策として、ビジネス実務と競合するような専門学校志望者に対し、金城短大の特長を的確に伝えていく。また、安易に就職を希望する生徒に対しても進学の意義などを積極的に伝えていく。
③	就職指導の充実 〇景気に陰りが出てきたので、各生徒と企業に対して昨年以上にきめ細かく対応して、就職指導を行っていく必要がある。また、公務員志望者には、民間企業対象者とは別に説明会を実施する。	進路指導部	本年度も引き続きコロナ禍の不安を抱えながらの指導ではあったが、学校紹介の生徒に関してはほぼ内定をいただくことができた。学校には多くの求人票がくるが、生徒の希望職種と離れている場合も多く、生徒自身が探してくるケースも増えている。	就職希望者（学校紹介）の決定率 S　100% A　95%以上 B　90%以上 C　85%以上 D　85%未満	A	学校紹介の生徒に関してはほぼ内定をいただくことができた。 求人票は前年度同様、多くの企業からきているが、やはり希望する職種にこだわる生徒が増えてきており、生徒自身が探してくるケースや、まずはパートとして採用してもらうケースも増えている。

重点目標　　5. IR（インスティテューショナル・リサーチ）及び自己点検・評価						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	各コースにおける教育活動の充実 〇カリキュラムマネジメントの充実	教務部	カリキュラムマネジメンを作成し、教科に指針として提示した。保護者アンケートや卒業アンケートでの満足度はいずれも高い。校内外研修への参加や模擬試験における学力向上など、課題は残る。	ルーブリック 20 点満点評価 （1）教員の指導力及び資質の向上（重点目標２の①） （2）学習の基礎基本の徹底（重点目標２の②） （3）模擬試験における目標の明確化（重点目標２の④） （4）本校の満足度（重点目標５の②） （5）成績不振者数 S　18 点以上 A　15 点以上 B　12 点以上 C　10 点以上 D　10 点未満	A	来年度より、学校ルーブリックを作成し、評価項目を明確にし、生徒に提示しながら啓発を行う仕組みを導入したい。これにより生徒個々の資質向上や現在行われている観点別評価の明確化が期待される。
②	本校の満足度調査を行う 〇保護者アンケート	教務部	全学年の保護者に対してアンケートを実施した。実施時期は１学期保護者会である。１年生の回答率は 49.1%、２年生は 27.4%、３年生は 71.9%であった。概ね肯定的評価が多かった。肯定的評価の平均は 89.2%であった。	各アンケートの結果 S　肯定評価 95%以上 A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	S	１学期保護者会期間に保護者アンケートを実施し、全体で 66.9%の回答を得た。評価は全ての項目で肯定的評価が極めて高く、全体評価は昨年度に比べ 0.1 ポイント増の 95.2%であった。
	〇卒業生アンケート		今年度も、コロナ禍で行事の中止や修学旅行が中止になったが、3 年学年会の努力等もあり、生徒の満足度は高く、総合評価の肯定的評価は 92.6%となった。		B	卒業アンケートを実施した。生徒の満足度（総合）は 87%であった。今年度もコロナ禍により行事の縮小などがあったものの、行事に関する満足度は 87.9%である。 また、教員の授業のわかりやすさについては 88.7%、教員の生徒に対する丁寧さについては 95.7%、授業によって必要な学力がついたと回答する生徒は 87%と、日頃からの教員の指導に対する評価を受けている。

以上